



こころの健康 教えてドク太くん!



千葉県医師会
もりもと こうじ
森本 浩司 医師

統合失調症について —その2 治療①「薬物療法」—

統合失調症の治療は、
「薬物療法」と「生活リズム」の二つの要素が重要!

Q 薬物療法の注意点は?

薬物療法で大切なことは、

- 治療を始めたときや病状に変化があったときに、少しでも早く自分に合った処方を手に入れること
- 薬の副作用が出たときに、なるべく早く対応すること

この二つです。

その理由は、「社会との接点が失われる時間を少しでも短くするため」と「薬の効果を最大にし、副作用を最小にするため」、「薬の量を最小限にするため」です。

Q 自分で服用方法を変えてしまうとどうなるの?

服薬を忘れて、自分の判断で薬を調節してしまうと、自分に合った処方を手に入れることが遅くなる場合があります。

自分に合った処方を見つけれらるまでに時間がかかると、病気の経過を悪くするだけでなく、学校や仕事など自分にとって大切な社会的資源を失う確率を高めてしまいます。もちろん主治医もその人の病気を把握できなくなり、病気の将来の経過に影響を及ぼすこととなります。

途中で勝手にやめてしまうよくある例

- 自分では副作用だと思い、薬をやめた。(実は副作用ではなく、「症状」だった)
- 薬の効果がでてくるのを待たずに、効かないと自己診断してやめた。
- 薬の説明書やネット情報に症状があてはまらないのでやめた。

★自己判断での薬の調節は、自分に合った薬を見つけづらくする!



Q 薬物依存の可能性はあるの?

自分に合った薬が見つかった後も、病状の変化に伴って処方を変えなければならないことがあるのですが、その時にきちんと通院・服薬が守られていないと、主治医はなぜ状態が変化したのか十分に分からず、適切に対応できないことがあります。

薬物依存症を作り出してしまう危険性は、主治医に伝えないまま自己判断で薬の服用方法を変更しているケースで多くみられます。

以上のようなことが重なって、なかには気がつかないうちに自分で自分を『難治性の病気』にしている人もいます。

大切なのは、次の診察の時までは可能な限り処方された通りの薬を服用し、受診の際にありのままの状態を主治医に伝えて、自分の服用する薬を自分にうまく合わせて行く作業をしていくことです。もちろん、調子が悪くなったり、このままで大丈夫なのかと、不安になったりしたときには、予定よりも早く受診することをためらうべきではありません。

みなさんに伝えたいこと

- 決められた通りに服薬する
- 決められた通りに通院する
- 薬が合わない、副作用が気になる、などと感じる場合には、必ず主治医に相談をして調節する



大切な3つのことを
守りましょう!



★「治療『生活リズム』」については次号で解説いたします。